

春のあたたかな風とともに、校内に明るい声が響き、気持ちまで華やかになります。

入学・進級おめでとうございます。今年度もたくさん勉強して、たくさん身体を動かして、たくさん本を読んで、充実した高校生活を送ってください。

小さな写真集の アンドレ・ケルテス『読む時間』(748 頁) には、本や新聞を読んでいる人々の姿が収められています。ただ「なにかを読んでいる姿」だけなのに、その先に広がる世界までもが見えてくるような気がします。Y校図書館の中でも、絵本のコーナーやマンガ本コーナー、洋書コーナーの近くの椅子で思い思いにくつろぎながら本を広げるY校生の姿を見て、私も心が和んでいます。Y校図書館では、約28000冊の本がみなさんを待っています。

司書

📖 2022本屋大賞 決定! 📖

2022年本屋大賞が決まりました。大賞は、前回のYぶらりーで紹介した逢坂冬馬『同志少女よ、敵を撃て』(913.6 ア)でした。

この作品は、第二次世界大戦時にソ連の狙撃兵となった女性が主人公の、あくまでも「物語」のはずなのに、同じような光景がこの21世紀のいま、ウクライナで繰り広げられています。戦争で戦う意味とは何なのか。この本を読んで真剣に向き合ってみてください。

今回は、前回紹介しきれなかったノミネート5作品を紹介します。すべて図書館に所蔵があります。貸し出し中の場合は予約ができますので、どうぞご利用ください。



○一穂ミチ『スモールワールズ』(913.6 イ)〈本屋大賞3位〉

日常を小説に切り取ったような短編が6編収められています。

どの話にも、大きな問題が起こるわけではないけれど、この世界のどこかでひそやかに暮らす小さな家族という単位の物語が、絶妙な静けさをもって描かれています。

なかでも書簡のやりとりだけで綴られた「花うた」は、兄を殺された女性と、その兄を殺した受刑者とが交わす手紙の内容が変わっていく過程が興味深く、何度でも読み返したくなる作品です。

○朝井リョウ『正欲』(913.6 ア)〈本屋大賞4位〉

「正しさ」の価値観について、人のもつ「欲」について、「多様性」を認めるということについて、その「多様性」からもはみでてしまう趣向について、苦しくなるほど深く考えさせられる本です。昨年の夏に発行したYぶらりー第4号「地元 横浜の本」のコーナーでも紹介したとおり、弘明寺や蒔田、清水ヶ丘公園が舞台として出てきます。場所も含めてあくまでも作り話ではあるのだけれど、自分の知らない世界がどこかにあるということを知るために、そしてその知らない世界の中でひそかに苦しい思いをしている人がいるということを知るために、きっとこのような小説があるのだから、高校生の今、読んでもらいたい本だと思います。

○町田そのこ『星を掬う』(913.6 マ)

『52ヘルツのクジラたち』で、昨年の本屋大賞を受賞した町田そのこの新作は、DVや若年性認知症、介護や虐待、SNSの炎上や難しい母娘関係など、さまざまな困難を抱えた女性たちを描いた物語です。

自分が辛いときや苦しいとき、今の自分の立ち位置を正当化するために、たとえ自分の心の中だけであっても、つい人のせいや環境のせい、何かのせいにしてしまうことがあります。誰に迷惑をかけるわけでもないかわかっていても悶々とした思いが残るのは、本当はやはり自分のせいであることを、自分が一番よくわかっているから。そんなことを改めて考えさせられる、自身を見つめ直す機会を与えてくれた作品でした。

○小田雅久仁『残月記』（913.6 オ）

「月」が話の重要な部分を担う、三つの短編小説がおさめられた本です。薄気味の悪さが印象的な一作目、その薄気味の悪さにダークファンタジーの世界観が加わった二作目、そしてさらに格闘技や恋愛、政治にまで小説の世界を膨らませた三作目。それぞれの話に関連は無いのですが、一、二作目で頭の中がハテナの状態になっても、最後まで読み進めたら薄気味悪さが拭えて、不思議な月の世界にどっぷりはまっているかもしれません。

○青山美智子『赤と青とエスキース』（913.6 ア）〈本屋大賞2位〉

本番の絵を描く前に、構図を取るデッサンのような下絵のことを「エスキース」というそうです。オーストラリアのメルボルンで描かれた、一枚のそんなエスキースが、作品の中で流れる30数年という時間に現れるさまざまなエピソードにつながって、ひとつの物語となっています。本を閉じたあと、ほんわりとあたたかい気持ちになれる、優しい作品です。

□ 今月のおすすめ本 □

○ 暉峻淑子『対話する社会へ』（361 テ 新書）

ある先生が「戦争の反対の言葉を生徒に聞くと、皆『平和』と答えるけれど、戦争の反対は「対話」なのだ」と話してくれました。この本の著者も、「戦争・暴力の反対語は、平和ではなくて対話」であると語っています。

家族など個人対個人で対話をする事の大切さから、国家間での対話の重要性を、わかりやすい言葉で説いています。人と人のつながりを取り戻し、社会を変革していく対話についての新しい視野が開ける本です。

いま、図書館の一角に設置した「考えてみよう」というコーナーで、世界で起きていることを考えるきっかけとなるような新聞や本を展示しています。その一部を紹介します。

○ 池上彰『池上彰の君と考える戦争のない未来』（319 イ） は、そもそも戦争とは？なぜ戦争が始まるのか？

どうすれば戦争はなくせるのか？という問いについて、過去の歴史を知り、現在のさまざまな問題をとらえながら、自分が考えるための力を授けてくれるような本です。

○ Dr.マンディープ・ライ『世界を知る101の言葉』（302 ラ）のことが書かれた新聞記事の一部を引用します。

世界の国々の「価値観」を研究したという女性ジャーナリストの書いた本が手元にある。あまりにも現況を言い当てていて少々驚く。ロシアで大事にされる価値観は「不屈」だという。国際社会の経済制裁による貧困の増加を話題にすると、一般の人が著者にこう語ったそうだ。「食べ物はありません。我々が恐れられていると知ることが、栄養になるのです」（2022年2月23日 読売新聞 編集手帳）

□ 横浜市立 南図書館から □

弘明寺駅のそばにたたずむ南図書館にて、Y校生の作った本のPOPが展示されています。

昨年度の1年7組の生徒たちがプラクティカルイングリッシュⅠの授業で作成した、英語の本を紹介する英語で書かれたPOPと、昨年度の3年生が卒業時に残してくれた、国語表現の授業で作成したPOPがそれぞれ数点、階段の踊り場の小さなスペースや本棚の片隅で、南図書館の利用者の目を和ませています。作品は少しずつ入れ替えながら4月17日まで展示されるそうです。開催期間中に足を運んでみませんか。



Y校アーカイブ vol. 9 「教科書」

昭和4年の卒業生から寄贈された教科書です。

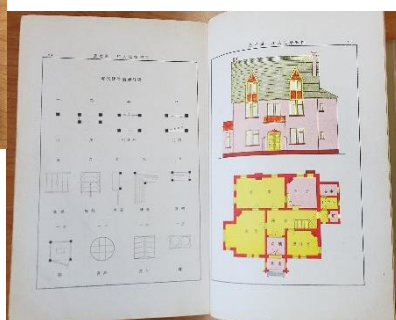
「中等教育算術教科書」「中等立體幾何學教科書」「最新圖法教本」「最新外國貿易實踐」「改訂最新銀行簿記」「改訂最新銀行簿記」「新式珠算 神尾式獨算ノート 附 新式乗除算法」「新制 漢文讀本」「新制 實業修身教本」「中學 國文教科書」「實業教育輓近理科教科書 博物編」「新訂 中學日本歴史」「商業作文綱要」「實業新作文」「商業英語十二講」「EASY ENGLISH COURSE」「NEW INTRODUCTION TO THE ART OF ENGLISH COMPOSITION」「NANNICHI'S PRACTICAL ENGLISH GRAMMAR FOR INTERMEDIATE SCHOOLS」など、30冊に及ぶさまざまな科目のものがあありますが、商業関係のものが少ないのは、仕事上の実践で活用していたからでしょうか。英語の教科書はとても充実しています。



カラーのイラストが美しい製図の教科書「最新圖法教本 第一・二巻」や、手紙の書き方など実際に日々役に立ちそうな「實業新作文」は例文も面白く、当時の授業中にも笑いがあふれていたのではないのでしょうか。



表紙の図柄も美しい、教科書らしからぬ本です



糸で閉じられた和綴りの製本です
例文タイトルは、まさかの「犬の下痢どめの問合はせ」

